

# 明治末～昭和初期の蜃気楼絵葉書の読み解き

魚津埋没林博物館 石須 秀知

## はじめに

明治 33 年に私製絵葉書の使用が始まって以降、各地の観光名所で絵葉書が作られ、記念品・土産品の定番となった。魚津（富山湾）の蜃気楼もその例外でなく、明治末以降、バラエティに富む絵葉書が作られてきた。

ここで、それぞれの絵葉書に描き出された蜃気楼と、そこに読み取られる時代背景などを紹介する。

## 手描きの蜃気楼

当時の写真機材・技術の事情から、写真を使った絵葉書でも蜃気楼の部分は手描きであるものが大半である。

ただし、その多くは蜃気楼のイメージをなるべく忠実に伝えようとする意図が読み取られ、捏造や欺瞞的な合成写真というわけではない。（いわゆる“楼閣”風の、いかにも絵！というものはむしろ少ない）

## 同じ図柄の使いまわしと改変

発行元が同じである場合はもちろん、異なる発行元と見られるものにも同じ写真や絵の流用が散見される。

同じ写真を使っている、船を描き加えたり、逆に消去したり、蜃気楼部分を強調したりなど、違いを出そうとする痕跡が見られる。

## 絵葉書に対する“箔付け”

測候所長の写生の使用や、東京天文台長の校閲をうたうなど、箔付けしたものもある。寺尾寿は、東京天文台(現国立天文台)の初代台長で、日本の天文学の礎を気付いた人物。

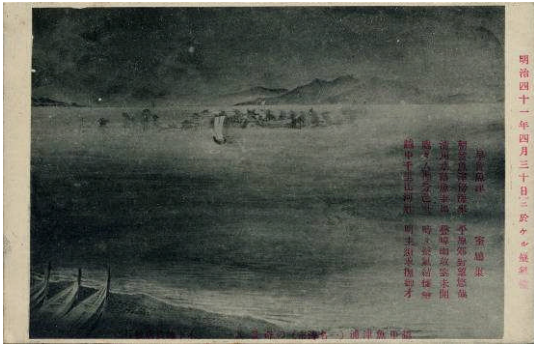
## 絵葉書に写された魚津の歴史

### ・通称“浜線”

魚津の海岸に現在はない線路が写った絵葉書(大正 2 年発行)は、短期間しか存在しなかった線路の記録。撮影地は埋没林博物館の南、現魚津港内と推定される。そこへ至る線路は現在埋没林博物館の敷地となっている場所を通過していた。

### ・蒸気船と米騒動

蜃気楼の前景として蒸気船を写した写真絵葉書が何種類か確認されている。当時の魚津港は本州と北海道を結ぶ寄港地として利用されていた。大正の米騒動の発端となったのは、蒸気船「伊吹丸」への米積み込みを阻止しようとした主婦たちの行動。伊吹丸が写った絵葉書はないか？

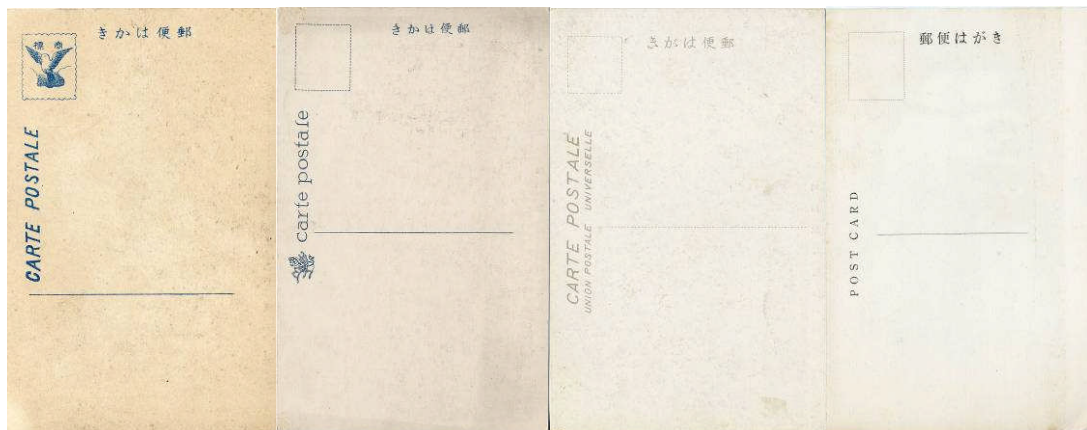


### おまけ・・・絵葉書の年代の目安

おもてがき  
表 書面の様式で区分

年 代	区分	「郵便はがき」表記	通信文欄
明治 33～39(1900～1906)年	明治	きかは便郵	なし
明治 40～大正 6(1907～1917)年	明治末～ 大正前期	きかは便郵	3分の1面
大正 7～昭和 7(1918～1932)年	大正後期～ 昭和初期	きかは便郵	2分の1面
昭和 8～19(1933～1944)年	昭和前期	きがは便郵	2分の1面
昭和 20(1945)年以降	戦後	郵便はがき	2分の1面

※定められた様式が変わっても、すぐに印刷・流通に反映されたかはわからない。



明治末～大正前期

大正後期～昭和初期

昭和前期

戦後